

## 地域包括ケアネットワーク No.2

西大寺医師会 石井 純 一

9月13日に、平成26年度第1回地域包括ケア部会合同会議に出席しました。

今回がKick off Conferenceということで、どのような内容か勉強させていただき、全体のイメージをとらえて、今後の活動の参考にしようと思っていたのですが、熱気あふれる会となり、のんびり勉強している場合ではなく、もっと積極的に地域包括ケアにかかわっていただきたい、とのことでした。

考えてみれば最近、「地域包括」という言葉が大変多く目につくような気がします。地域包括支援センター、地域包括診療、地域包括診療加算、地域包括ケア病棟等々。これはどうやら平成22年3月に厚労省の地域包括ケア研究会報告書で、団塊の世代が75歳以上になる2025年を目途に、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していくという報告にはじまっているようです。今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要で、各地域で高齢化の進展状況には大きな地域差があるので、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが重要ということです。

ということで、医療も介護も生活支援も施設なども入る住まいをも含む大きくくりの中、地域に応じた地域包括ケアシステムを構築するために、国や県や市町村のサポートを受けながら医師会並びに地元の先生方が中心となって、リーダーシップをとりながら、自主的な運営が必要となりそうです。総論的な話になってしまいましたが、西大寺地域では市が中心となって多職種連携や、地域ケア会議や、地域包括ケア病棟の整備など部分的には順調ですが、認知症対策や、在宅医療に関しては個人的にそれぞれが頑張っている状況で、それらをまとめて、地域包括ケアシステムとするまでには、もう少し時間が必要かと思われます。どちらにしても、日本医師会のめざす、かかりつけ医を中心とした住みよい街作りと、国のめざす地域包括ケアシステムの構築はほぼ同じものと言っているように感じますね。